





いちわのカラスが にくの かたまりを くわえて とんでいました。
「さて、ここで おひるにしよう。」



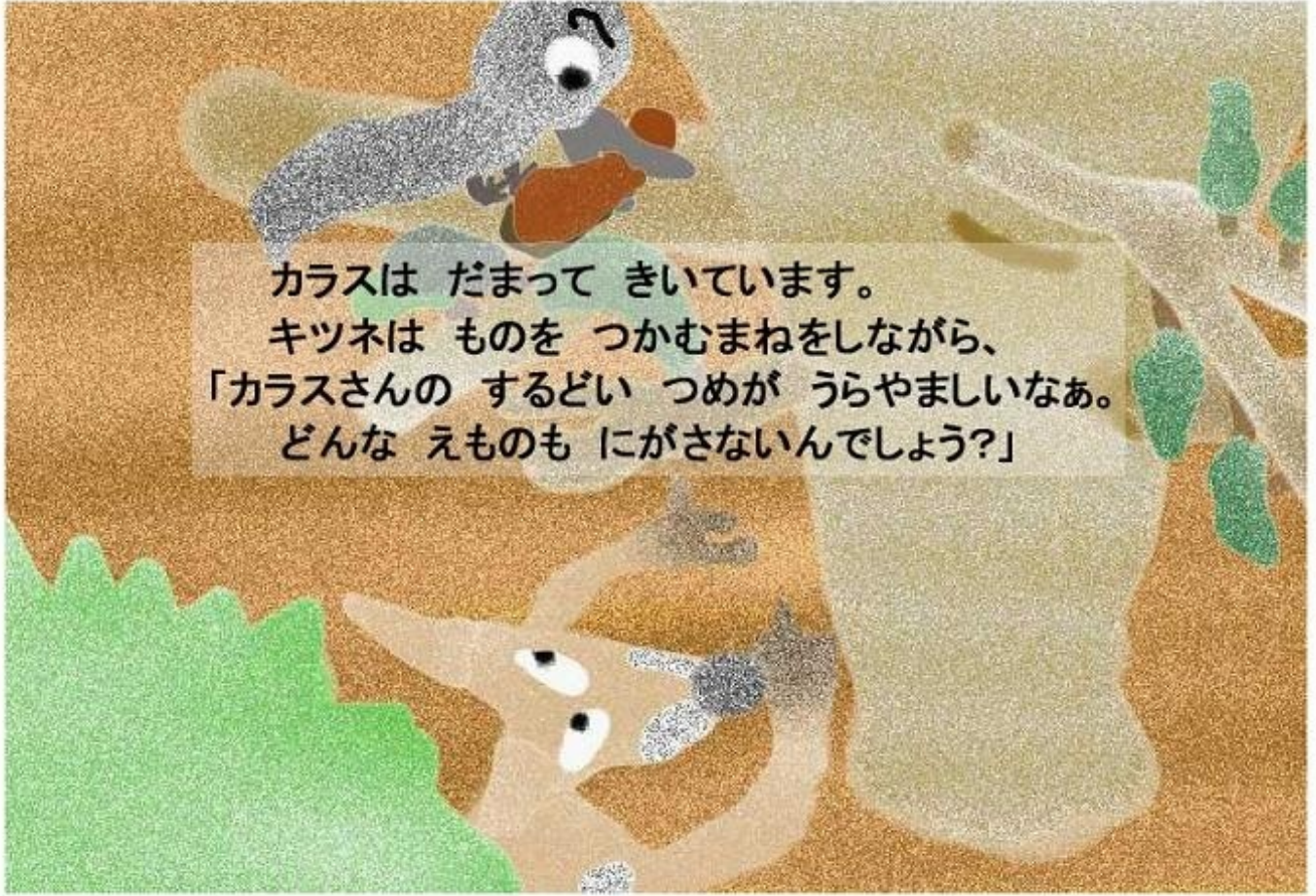
カラスが きにとまり、にくをたべようとする、
したから キツネが こえを かけてきました。



キツネは はばたくまねを しながら、
「カラスさんには りっぱな はねがあつて いいなあ。
そらからの ながめは、うつくしいでしょうねえ。」



カラスは くちが ふさがっていて、へんじが できません。
キツネは けづくろいを するまねをしながら、
「カラスさんの はねは きれいだなあ。
ていねいに ていれをしているんですね。」



カラスは だまって きいています。
キツネは ものを つかむまねをしながら、
「カラスさんの するどい つめが うらやましいなあ。
どんな えものも にがさないんでしょう？」



カラスは ほめられて、だんだん いいきぶんになってきました。

「カラスさんのこえは、きっと すばらしいのでしょうねえ。
ああ、いちどでいいから きいてみたいなあ。」



カラスは おもわず「カァー」と ないてみせました。



キツネは おおきなくちを あけて、おちてきたにくを
ぱくつと たべてしまいました。



カラスは まんまと だまされたじぶんに がっかり。
キツネは してやったりと、にげていきました。